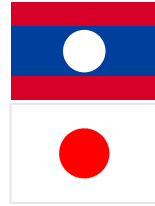


ラオス通信 — ໂທລະຄົມ ລາວ —

発行日 平成27年7月 日 Vol.5 ~国の概観 その③~



雨季に入って涼しい!

ラオスは雨季に入り、暑さが少し和らいできました。これから少しずつですが気温が下がっていきます。日本は梅雨が明け、本格的な夏に入っている頃でしょうか。今回は簡単にラオスの歴史と日本との関わりについてみていきます。

過去に日本軍が進駐していたことも?

現在のラオスの起源は、1353年に成立したランサーン王国です。16世紀には、王国が興盛を極めるものの、18世紀初めに3つの王国に分裂します。分裂後、勢力が弱くなり、シャム(現在のタイ)の支配下に置かれます。19世紀半ば以降、カンボジア、ベトナムを植民地としたフランスは、1899年にルアンパバーン王国(分裂した王国の一つ)をインドシナ連邦に編入します。第二次大戦後には、フランスはドイツに降伏し、日本はフランスにインドシナへの軍隊の駐留を認めさせます。その後、終戦間際の1945年3月に日本軍が現地における実権を握り、同年4月、日本はルアンパバーンを独立させますが、大戦後無効となり、同年10月、ラオス人によるラオス臨時人民政府が成立します。翌年、フランスが再度植民地化を実施します。独立を目指しますが、国内で分裂し、内戦状態に突入します。1953年に独立を果たしますが、1975年にラオス人民民主共和国(現政権)が成立するまで内戦が続きしました。

日本と関係は長い!

1955年に日本はラオスと国交を樹立しています。今年には外交関係樹立60周年であり、協力隊を派遣してから50年の節目の年です。また、日本はラオスの二国間援助の最大援助国としてラオスを支え、発展の歴史を支えています。2012年までに約2,200億円の経済協力を行っています。ラオスでは、国際空港、ダム、橋といった多くの建物が日本の支援で建設されています。そのため、ラオス人は親日家が多くいます。

あとがき

先月、ラオスの副首相表敬訪問のため首都へ上京しました(右写真)。ラオスの協力隊員は、例年表敬訪問を行います。また、在ラオス日本大使公邸へ招待され、大使及び大使館の方と懇談したり、日本食をご馳走になったりとおもしろい時間を過ごせました。



日本の支援で建設された校舎
(ウドムサイ県ラー郡)



日本ラオス国交樹立60周年記念ロゴ

